

# 東松山市を元気にする

第14期 国際・文化学部B班



(少子化班)	大江憬子 大塚弘子 清水澄江 芝崎陽子 △遠山玲子 ○中村哲久 ◎山岸 隆 山崎俊夫
(高齢化班)	江守あや子 大川和子 大野静男 △大宮直一 鮫島純一 ○二宮 健 山上美代子 山下利巳 吉岡 勉 若林 茂

◎ 総括リーダー ○ 班リーダー △ 班サブリーダー

## 【 目 次 】

### I はじめに

- 1 研究テーマ設定の背景
- 2 研究テーマの設定及び進め方

### II 少子化班の活動について

- 1 東松山市の"子育て基本施策"の理解
- 2 市の子育て支援事業(ボランティア)の見学
- 3 民間ボランティア団体による子育て支援事業の見学
- 4 滑川町との比較
- 5 アンケートから子育ての生の意見

### III 高齢化の側面からの検討

- 1 検討テーマの決定と課題研究の活動記録
- 2 きらめきサロンの有効活用について
  - 2.1 サロン活動の調査
  - 2.2 サロン活動の課題とサロンの活性化に向けた提案
- 3 子どもの学習・教育支援活動について
  - 3.1 子どもの学習・教育支援活動の調査
  - 3.2 子どもの学習・教育支援活動の分析
  - 3.3 基礎学力の充実に向けた学習支援活動

6 アンケートから推測される高未婚率の背景	の提案
7 アンケートから推測される高齢者ボランティアの意識	4 まとめ
8 まとめ	IV おわりに

## I はじめに

### 1. 研究テーマ設定の背景

「自治体消滅」。この衝撃的な言葉が脚光を浴びてから数年が経つ。地方創生が毎年のように叫ばれていながら、依然として中央と地方の格差は埋まっていない。

私たちの住む東松山市も図 I.1.1 に示す通り、人口が平成 37 年には約 8 万 2 千人に、平成 52 年には約 7 万人に減少すると推計されている。生産年齢人口に至っては、約 7 割になると見込まれている。

一方で、平成 52 年には高齢者は 10% 増加し、高齢化率は、35.8% に達すると見込まれている。現在と比べ、10 ポイント以上の増加となる。

一人の女性が生涯に産む子どもの平均数である「合計特殊出生率」は、図 I.1.2 に示す通り平成 14 年以降、国、県の数値を常に下回っている。平成 25 年には 1.20 まで回復したものの、国が掲げる「2020 年(平成 32 年)までに 1.80」には程遠い状況である。東松山市は国、県の平均より、少子高齢化が一層進んでいるように思われる。

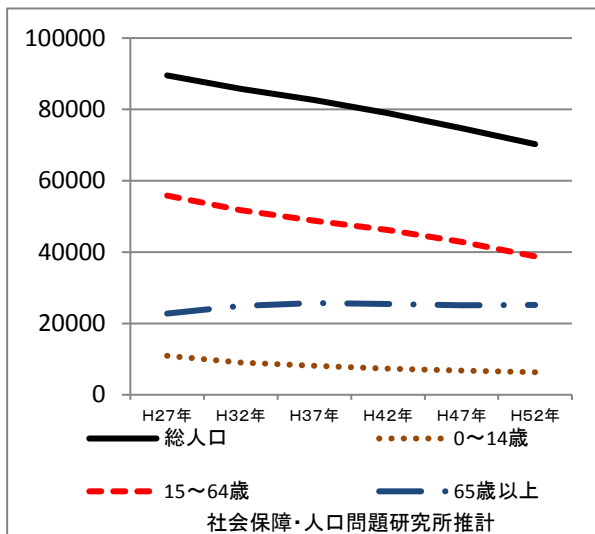


図 I.1.1 東松山市の人口推計

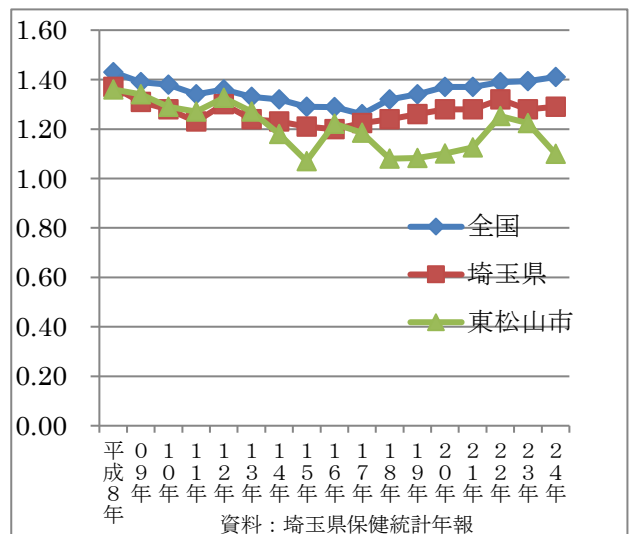


図 I.1.2 合計特殊出生率の推移

市民意識調査（平成 25 年度）では、東松山市の印象はどのようにとらえられているか。表 I.1.1 に示す通り、全体としては都市としての魅力に欠けるという印象が強い。東松山市は「元気がない」という印象を持っている市民が多い。

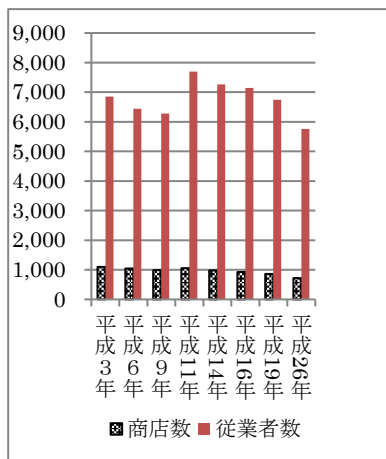
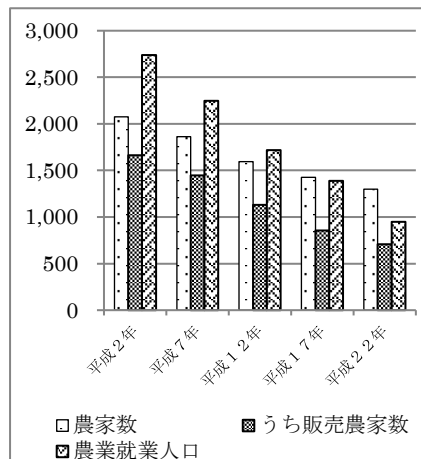
表 I.1.1 東松山市の印象

別の調査（埼玉県政世論調査：平成 27 年 11 月）によれば、川越・比企地域は「交通の便が悪い。」「通勤や仕事に不便」「買い物に不便」といった理由で、転出

「よい」と感じるものが上回るもの	人柄・土地柄、自然環境、歴史と伝統、買い物などの日常生活の利便性
「わるい」と感じるものが上回るもの	都市としての個性や魅力、市の発展性、街並みの美しさ、活気にぎわい

したい割合が県内で最も高い。

図 I.1.3 から図 I.1.5 はそれぞれ、農業分野、商業分野及び工業分野から見た近年の東松山市の現状である。農店の数や商業従事者も減少、続けている(資料:「統計ひが版」)。



業就業人口は激減し、商市内の事業所数も減少し「しまつやま」平成26年度

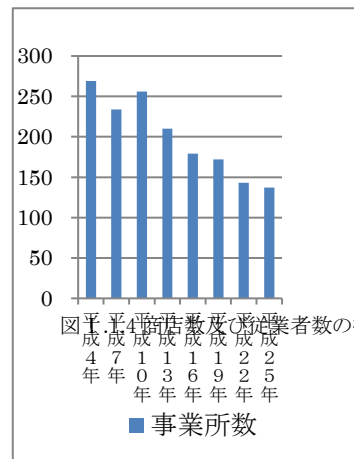


図 I.1.3 農家数、農業就業人口等の推移

東松山市ではこの現状に対し、第5次総合計画<sup>1)</sup>において、平成37年の目標人

口を8万7千人とし、人口減少に歯止めをかけ、「子育てしやすいまちづくりと教育の充実」「高齢者がいきいきと活躍できる環境の構築」など7つの課題設定を行い、「元気と希望に出会えるまち 東松山」を目指そうと様々な施策を展開している。

## 2. 研究テーマの設定及び進め方

私たちは、このような東松山市の現状を知り、何とか市民レベルで「東松山市を元気にする」手立てはないのかを考えたいという思いに駆られ、これを研究テーマに設定することとした。

あまりに大きなテーマであり、無謀とも思えたが、やはりカギを握るのは「人口の減少」である。農業人口の激減も、高齢化により農業の担い手が少なくなっているのが原因となっている。商店街の疲弊も同様だろう。工業生産の落ち込みも生産年齢人口の減少が大きな要因となっている。

しかし、これらすべてを研究テーマに据えるのでは、あまりにも範囲が広く困難を伴う。「少子高齢化」は日本だけではなく、先進国に共通の課題であり、地球レベルの課題となっている。そこで、私たちは「東松山市を元気にする」という大きな課題を見据えつつ、「少子化」「高齢化」という観点から「自分たちでできることは何か」、「これまでの施策の中で改善できることはないか」を探ることとした。

研究を進めるにあたっては、より効率的な活動が行えるよう、「少子化対策グループ」と「高齢化対策グループ」の班分けを新たに行い、それぞれのグループごとに、さらに掘り下げる課題を決めながら研究活動を行った。1カ月ごとにお互いの調査状況を確認しあうとともに、2班が共同で活動すべき事項については、共同での調査活動を行った。少子化班、高齢化班とも、それぞれが月2回以上、班内での議論を重ねると

ともに、関連する行政部門や福祉協議会でのヒアリング調査、民間施設等の訪問調査、アンケート調査などを実施してきた。

以下、その結果と考察について報告する。

## II 少子化班の活動について

“東松  
気にす  
に少子  
少子化  
く環境、  
育て環  
目し、  
く理解

プロセス	目次No
① 東松山市の子育て施策を調査	1
② 市の子育て支援事業（ボランティア）の見学	2
③ 民間ボランティア団体による子育て支援事業の見学	3
④ 少子化が抑えられている他市町と比較	4
⑤ 子育ての生の意見を保育園親御さんへのアンケートから聴取	5
⑥ 高未婚率の背景に触れること、高齢者ボランティアへの意識を、きらめき市民大学生へのアンケートから聴取	6, 7

山市を元  
る”ため  
化班は、  
を取り巻  
特に“子  
境”に注  
現状を良  
し、我々

高齢者として何が求められているのかを考え、かつ少子化の直接的な理由の一つである高未婚率についても触れてみよう、議論を重ねた。最終的に以下のプロセスで課題研究を進めた。

### 1. 東松山市の“子育て基本施策”の理解

第五次東松山市総合計画<sup>1)</sup>“前期基本計画”の目指すべきまちの姿を、“きめ細やかな子育て支援と地域が見守る環境の中で子どもが健やかに育つまち”とし、子育て支援の充実等を上げている。この具体策が、“ひがしまつやま子ども夢プラン”<sup>2)</sup>となっていることを、出前講座（3月10日）及び市報で確認した。

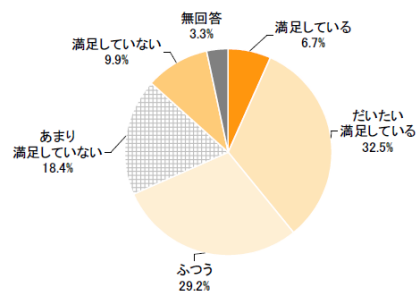
しかし、開示されたプランを読んでも不明な点、疑問点が多々あったため、市の子育て支援課を直接訪問（5月26日）して事前の質問/回答事項に沿って質疑した。以下の関心事項が明らかになった。

#### ① 低出生率

雇用環境や生活環境の理由により都心への若い世代が転出していること、国のアンケートより結婚相手との出会い不足、経済的な理由が原因と推測しているとのことであった。そこで、結婚相手の出会いの機会の創出等のために、埼玉県少子化対策協議会にて検討しているとのことであった。若い世代の転出の歯止め策は明確でなかった。

#### ② 子育て支援

○市の目玉事業として、子育てコンシェルジュ（利用者支援相談員）の配置による、「子育てなんでも相談窓口」を実施し、切れ目ない支援を実施しており、子育て支援センター“ソーレ、マーレ”及びコアラブック等でフォローしている。しかし市の調査で子育て支援で満足していないとの回答が3割近い(図Ⅱ.1.1)ことに対しては、母親が就労している家庭における子どもの預かりサービスの充実を求める意見が多いことから、これが背景にあるとしていた。



図Ⅱ.1.1 市における子育ての環境や支援への満足度 (子ども夢プラン)<sup>2)</sup>

○待機児童は現時点で12名おり今後大きく増える見込みで、更に入所不承諾者を入れると更に増えるとのことであった。対策として、新設はないが認可保育所を中心に整備することと、4つの家庭保育室（認可外保育所）についても、事業者より認可申請があれば、小規模保育事業への移行を検討する予定で、既に今年度中に2つの家庭保育室が小規模保育事業へ移行予定とのことであった。しかし3歳児以後は預けられず大きな課題となっているとのことであった。早急な対応が望まれる。

表Ⅱ.1.2 病児・病後児保育事業/ニーズと供給量 (子ども夢プラン)<sup>2)</sup> (単位:年間の延べ利用者数)

	平成25年度 (実績)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
①ニーズ量の見込み	130	615	615	610	602	601
②提供量(確保方策)		960	960	960	960	960
過不足②-①		345	345	350	358	359

※国のワークシートでは6,400~6,600人/年の病児病後児のニーズとなるが、アンケート調査で、緊急時に子どもを見てもらえる人が「だれもいない」割合の9.3%を量の見込みとした場合。(国によるワークシートの補正の考え方を参考)

○一時預かりの供給は充足しているとの調査結果(表Ⅱ.1.2)となっている。病児保育については、実際に多く利用者があり年々増加の傾向にあるが、これらの制度は、事前に申請・登録が必要で全員が容易に利用できるものではないことから、結果的に利用度に対して提供量が充足していた。延長保育、休日保育、ショートステイについても基本的に同様である。基準緩和が望まれる。

○児童へのサポート制度として、学校応援団、放課後児童クラブ、放課後子ども教室等の制度があり、放課後児童クラブ、放課後子ども教室共に希望者が増えている状態であり、後者は定員をオーバーし抽選をしている学校もある状況とのことであった。いずれも子供の居場所作りと関連し、非常に重要な事業と思われた。また、いずれもボランティア不足の状況にあり、高齢者の支援を求めている。

○教育支援では、土曜日寺子屋制度が実施され多くの児童が参加している。やや懸念のある教育レベルを上げる観点からも重要な施策であると推測された。

### ③ 貧困

市として実態調査をしておらず、給食費無料も実施していないが、生活困窮世帯の子どもへは学習支援事業を実施し、母子家庭には児童扶養手当、一人親家庭等医療費支給、高等職業訓練促進給付金等の制度を設けており、施策としては充実しているとの印象を受けた。

以上より、東松山市の子育て施策は、出産祝い金支給等により子どもの数を直接的

に増やす施策ではなく、子どもが育て易い環境作りにより、幼児から中学生までをターゲットに種々の施策を立案実行していることが分かった。

## 2. 市の子育て支援事業（ボランティア）の見学

東松山市は多くの子育て支援事業を手がけており、その概要については既に子育て支援課訪問で明確になってきたので、実際に現地にて状況を確認することにした。

表Ⅱ.2.1 放課後子ども教室

### ① 野本小学校放課後子ども教室の見学（6月27日）

放課後子ども教室は、平成16年の「地域子供教室推進事業」以来実施されており、現在は地域の多様な方の支援を得ている。野本小での見学の機会を得たので訪問した。教室は畳部屋で低学年の児童15名が、机に向かって勉強したり、ゲームに興じたりして各々自由に活動していた。その後ボランティアによる腹話術があり、実に楽しい雰囲気であった。この教室は、元小学校長の男性による主導と、5名程度の女性のボランティアで運営されていた。放課後の居場所、見守りとして適していると思われたが、定数が限られており、ボランティアも不足気味とのことであった。

表Ⅱ.2.2 English寺子屋、学校応援団

### ② English寺子屋参加（6月～）

English寺子屋のボランティア募集を市報で知り、少子化班のNが6月より参加している。東松山市独自の取り組みとして、桜山小にてALTの外国人先生により全て英語で今年度から実施されている。小学校からの英語正式教科の動きから極めて関心が高く、多くの小学生が参加し、遊びをとおして英語を学んでいる。国際化が進む中で、早い段階から英語に慣れ親しむのは英語嫌いを避ける意味でも良いと思われる。ボランティアは中学生、主婦、退職高齢者等より構成され、3,4年クラスと5,6年クラスの2クラスに其々凡そ4～6名程度が、外国人英語教師が主導する中で、分からない子をほんの少しサポートしているが、子供との触れ合いができ、大変楽しい時間を過ごすことが出来ると感じている。もっと実施校が増えることを願っている。

### ③ 高坂小学校学校応援団の聞き取り（7月5日）

学校応援団は、保護者や地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する組織で、全国で取り組みが進められている。今回、高坂小学校の校長先生からその取組状況や問題点、課題等を聞く機会を得たので訪問した。高坂小では、地元地域の長寿会、読み聞かせグループ、図書整理ボランティアなどのグループの支援を受けており、ボランティアの数は47人。そのほか、見守り隊の方が子どもの登下校時の見守りを毎日行っている。内容的には「授業前の読み聞かせ」「賞状の浄書」「花壇の整理、除草」「図書の整理」などを行っており、見守り隊は子どもたちの安心、安全のためにもなくてはならない活動となっている。しかし、まだ読み聞かせの人数や見守り隊のボランティアなどは不足しており、特に下校時の見守りのボランティアが足りないとのことであり、地域の方々の協力をさらにお願したいとの話があった。「地域の子どもは地域が育てる」という考え方からも、非常に重要な活動であり、私たち高齢者の活躍の場にも大いになり得ると考える。



写真Ⅱ.2.1 放課後教室の一例



写真Ⅱ.2.2 English寺小屋の一例



写真Ⅱ.2.3 学校応援団、見守り隊の一例

## 3. 民間ボランティア団体による子育て支援事業の見学

東松山市においても多くの子育て支援を目的とした民間ボランティア団体があり、精力的に活動しており、市の子育て環境の改善に寄与している。その活動を見学をとおして状況確認した。

表Ⅱ.3.1 寺小屋、子どもネット、子ども食堂

① 世明寿寺寺子屋の見学（6月18日）

東松山市では民間で唯一寺子屋を実施していると聞き、高齢化班と合同で見学した。世明寿寺では平成20年より毎週土曜日9時から12時まで原則小学生を対象に、寺本堂を利用して教職経験のある林住職が主導していた。朝の挨拶から読経、座禅で始まり、自主活動、あるいは外活動と続き、訪問時は自分達で作付した米でおにぎりを食べる等して楽しんでいた。70～80代のボランティア2名がサポートして活動しており、地域ぐるみの子育てを目標に学校の勉強だけでは得られない人間形成を目指していた。“子供は地域で育てるのが重要です”との住職の言葉は重く聞こえた。

② 子育てネットの見学（5月25日；代表の永井氏に聞く、8月18日；活動見学）

代表の永井氏に聞く機会を得て活動内容を知った。子育てネットは同様の組織が全国にあるが、東松山市の子育てネットの発足は平成16年で、市内には他に「まつぼっくり」「どらえもん」がある。文字どおり子育て支援サークルで、母親達が主体で活動しているが、“助ける側、助けられる側の両面を持つようになってきた”とのことであった。最近では父親が支援サイドに入ってくるそうである。永井氏から、東松山市は支援体制は劣っていないが、児童館があれば幅広い年齢層で居場所作りとして貢献できるのではとの意見があった。

続いて活動センターに於ける活動状況を見学した。母親だけでなく、中学生もボランティアに参加して、多くの乳幼児、児童の遊び相手になっており、子ども、ボランティア参加者全員が楽しんでいた。子供達の居場所、仲間作り、更には新しい発見を得る場所として有効な場を提供していると思えた。我々に対しても支援期待があり、その期待に応えたいと思った。

③ 子ども食堂の訪問（6月24日）

市内で初めての子ども食堂が開かれたと社協より情報が有り、早々訪問し状況を聞いた。食堂を始められた高橋さんは、今問題となっている困窮世帯への食事提供に以前より興味があったこと、また独居のお年寄りや孤食の子ども達に楽しく食事してもらいたいという思い、たまには若い夫婦二人で子どもを「子ども食堂」に預けてゆっくり食事を楽しんでほしい等、飲食店での経験を生かして始めることにしたとのことであった。子ども食堂は毎週金曜夜で予約が必要であり、市の補助を受けてないことから有料で実施している。まだ手探りで運営している状況が窺われるが、我々世代で手助け出来る部分が多くあると感じた



写真Ⅱ.3.1 土曜寺子屋の一例



写真Ⅱ.3.2 子どもネットの一例

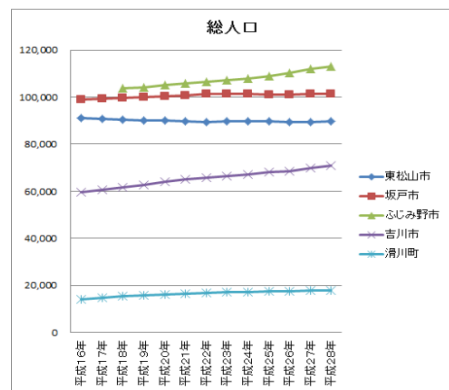


4. 滑川町との比較

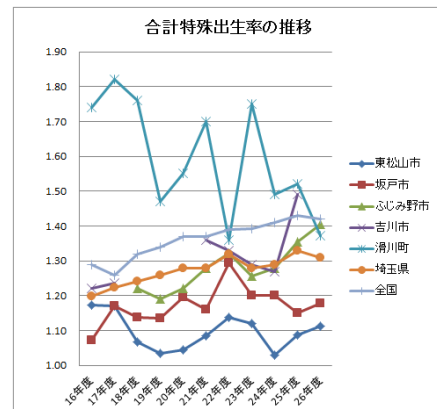
吉川市、ふじみ野市、坂戸市、及び滑川町を合計特殊出生率、人口増で比較し、その差の要因を見ると、吉川市<sup>4)</sup>、ふじみ野市<sup>5)</sup>は東京ベットタウンとして人口の流入が多いため出生率、人口増が高いが、都心から離れた東松山市<sup>2)</sup>、坂戸市<sup>3)</sup>は人口流出が多くなり出生率が低く、人口も横ばい減少となっている。一方、都心から離れた隣の滑川町は、出生率、人口増ともに高く、埼玉県全体と比較しても高い。（図Ⅱ.4.1、図Ⅱ.4.2）

そこで、滑川町の上記高い要因を公開資料及び滑川町役場訪問（5月16日）により調査した。

1世帯数当たりの人員数が多く（図Ⅱ.4.4）、未婚率も低い（女性；図Ⅱ.4.3）ことから3世代同居が比較的多く子育てし易い環境であったこと（特に市



図Ⅱ.4.1 東松山市と埼玉県4市町の人口増比較（各市区子ども・子育て支援事業計画、総務省統計局資料から）2,3,4,5,6,7

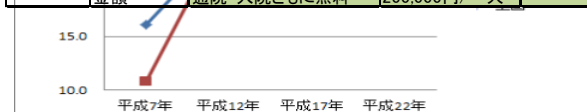


図Ⅱ.4.2 東松山市と埼玉県4市町の合計特殊出生率の比較（各市区子ども・子育て支援事業計画、総務省統計局資料から）2,3,4,5,6,8

表Ⅱ.4.1 東松山市と滑川町の子ども支援制度の違い  
(東松山市くらしの情報、滑川町福祉についてから) 9, 10, 11)

ノ川より北部地域は農業地域が多い)、制度面

	制度	医療費	出産祝金	給食費		ひとり家庭/高等職業訓練促進給付金支給制度		ひとり家庭/自立支援教育訓練給付金
	東松山市	所得・家庭条件	所得制限なし				住民税非課税	住民税課税
	年齢・対象	0～中学生	1歳)	小学校	中学校	看護師(准看護師を含む)、介護福祉士、保育士、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、美容師、社会福祉士等、及びその他市長が必要と認める資格		20歳未満・雇用保険制度の教育訓練給付の指定教育訓練講座
	金額	自己負担分、入院時食事療養標準負担額		4,100円	4,800円	100,000円	70,500円	費用の60%
				全て自己負担		上限3年		1講座/一人
滑川町	所得・家庭条件	所得制限なし	所得制限なし	み野市	所得制限なし			
	年齢・対象	0～高校生		幼稚園～中学校				
	金額	通院・入院ともに無料	200,000円/一人	無料				



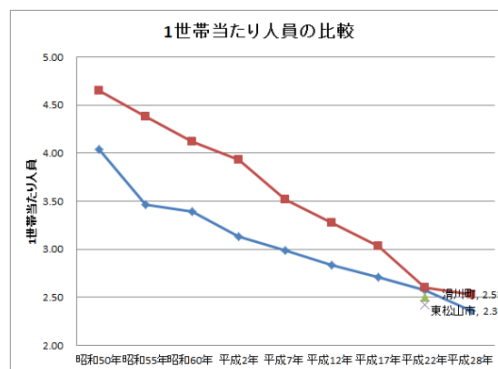
図Ⅱ.4.3 東松山市と埼玉県4市町の未婚率(女性)比較  
(各市子ども・子育て支援事業計画、総務省統計局資料から) 2, 3, 8)

でも  
高校  
生迄  
の医

図Ⅱ.4.4 東松山市と滑川町の世帯数比較  
(総務省統計局「国勢調査報告」から) 2, 3, 8)

療費無料、給食費無料、出産祝金(表Ⅱ.4.1)が若い世代に魅力的であったこと、更に南部地域は工場が集積しており雇用環境が良いこと等が要因として上げられた。

このような子育て、雇用環境から人口増が続いている。(図Ⅱ.4.1)しかし、滑川町でも世帯人員数が減少し出生率も減少傾向にある。



## 5. アンケートから子育ての生の意見

子育てをしている当事者、特に仕事を持ちながら乳幼児の子育てをしている親の仕事と子育ての両立の現状について、生の声を知ることが重要と考え、委託を含む市営の5つの保育園(高坂、松山、唐子、若松、市ノ川)に協力頂きアンケート調査を実施した。調査期間は本年8月22日～9月3日に亘り、対象者416名に対して回答者214名で、回収率は51%であった。回答者の配偶者なしは11%で、持ち家は77%で、平均子ども数は1.9人であった。

アンケート内容は、子育て以外にも含めた多岐に亘っているが、ここでは子育てに対



する回答の主たる内容を報告する。

### ① 子育て環境

職場環境は仕事と子育ての両立に良いとの回答が8割近く(図Ⅱ.5.1)、予想以上に良かった。保育園に通わせられない親の職場環境は見えてこないが、職場を考慮し苦労しながら保育園に通わせている人は少ないと言える。女性が職場の戦力となり、出産後も働く人が増えたためか、子どもを持ちながら働くことに理解や制度が整ってきたと思われる。

夫も何らかの形で育児に参加して、妻の育児軽減に協力しているようであるが、保育園の送迎は、本人が62%と忙しい現状を現している。

(前記資料は別冊アンケート結果報告書を参照)

仕事と子育ての両立で困っているのは、時間のやりくりで回答者の70%、子どもの病気で66%に達している。(図Ⅱ.5.2)後者は家族のみならず地域・行政支援でのサポートが求められる。

一方、東松山市の子育て環境が整っていないとの回答が58%と(図Ⅱ.5.3)高く、1.章でも示した市の調査結果(29%)の2倍であった。この要因は市の子育て支援策、公共施設、住環境、通勤環境等々から来るもので特定出来ないが、市の子育て支援策の状況をアンケートから見てみた。

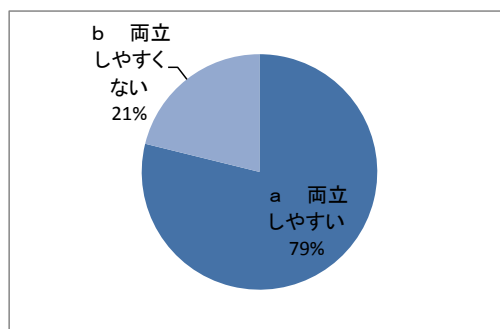
### ② 子育て支援策

ソーレ、マーレ等の支援センターは、活用経験者が55%と高く、意見の欄にもこれら施設に満足しているとの記入が散見される。(図Ⅱ.5.4)

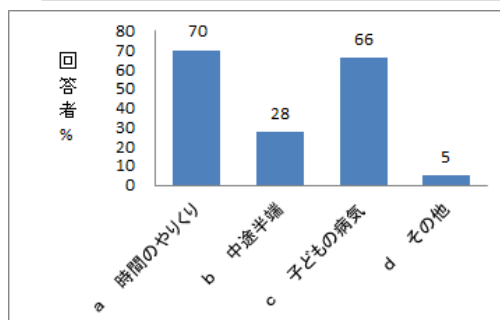
子育て情報源としては、先輩ママが61%と高いことから、親との同居が少ない中、身近な人からの情報が最も得やすいと推測されるが、保育士が続いて30%と高く大切な役を担っていることが分かる。

コアラブック、広報誌は利用者が其々3%、6%と低いのに驚かされる。種々の情報が溢れる(情報誌20%, SNS23%)現代において、その情報発信方法、内容を再考した方が良さそうである。(図Ⅱ.5.5)

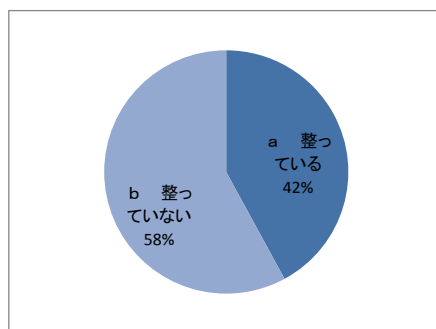
子育ての相談者は誰かとの質問においては、配偶者が68%、祖父母が54%で、続いてママ友、



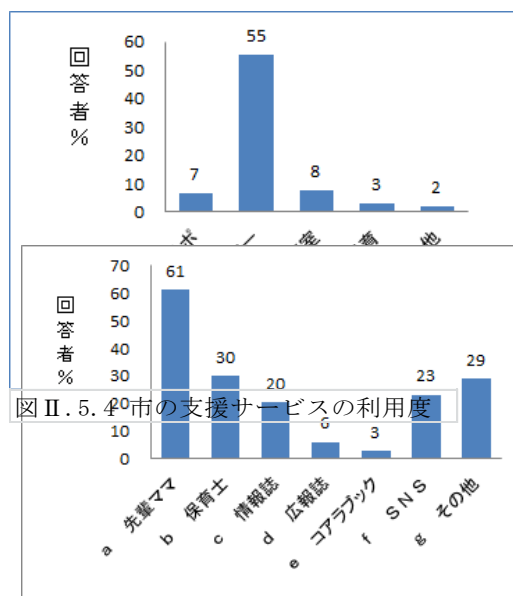
図Ⅱ.5.1 職場環境、仕事との両立



図Ⅱ.5.2 育児と仕事の両立で大変なこと



図Ⅱ.5.3 東松山市の子育て環境



図Ⅱ.5.4 市の支援サービスの利用度

保育士が53%、24%（図Ⅱ.5.6）となっており、前記情報源の回答と同様で、身近の相談者が最も多い。これらから、何らかの子育て情報を得、相談者を持っており、孤立した子育てでないようである。

一方、意見欄には種々の意見があっが、以下が多く記載されていた。

<満足>

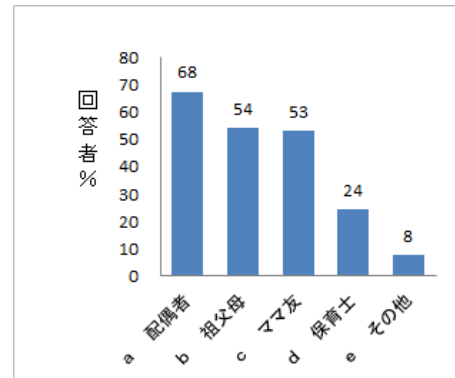
- A. ソーレ、マーレ支援センター；子どもを遊ばせられて満足している。
- B. 自然環境；他市から移った人は特に子育てに素晴らしいと満足している。

<不満>

- A. 保育園；待機児童数が増えており、早急な対策を求めたい。また、同じ園に兄弟で入れない状況で不便であり、4月入園のみで途中入園が出来ず困っている。
- B. 病児保育；緊急時に事前登録制となっているため使えないことから、基準緩和して欲しい。
- C. 市の施設；児童館、プール等が欲しい。また公園の遊具を増やして欲しい。
- D. ソーレ、マーレ支援センター；無料にして欲しい。また、3歳以上の子と一緒に遊ばないこと、小学生迄も含めた対象者の幅を広げて欲しい。

東松山市の子育て環境が良好でないとの意見が多い背景の一つに、市の子育て施策の運用面での課題が見えてくる。

図Ⅱ.5.5 子育ての情報源



図Ⅱ.5.6 子育て相談者

## 6. アンケートから推測される高未婚率の背景

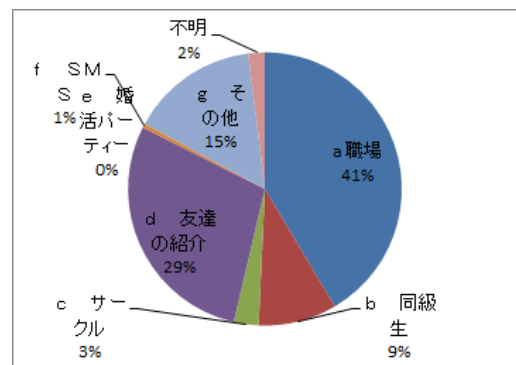
少子化の直接的な要因として、高未婚率が大きい。今回、保育園に通わせている親と、きらめき市民大学の親の立場から、高未婚率に関わる要因を調査した。後者の調査日、回収率は次章とほぼ同一で、未婚率は29%、未婚男性/女性の平均年齢は35.6歳/35.4歳であった。

### ① 出会い

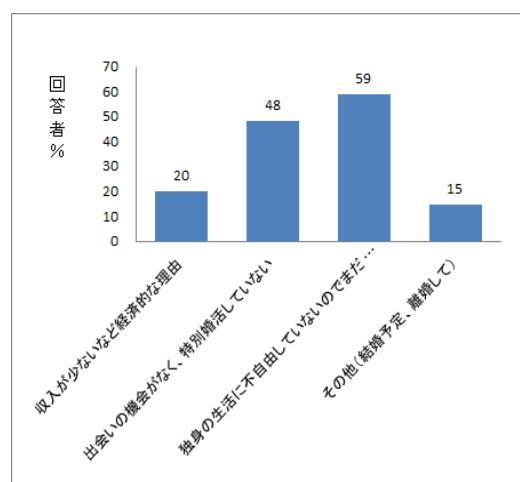
出会いは、職場と友人で70%程度に達している一方婚活が0%であった。出会いの場を用意しても高未婚率解消にならないようである。（図Ⅱ.6.1）

### ② 未婚の要因

未婚の要因は、きらめき市民大学の親の回答からは、出会いの機会が少ないこと、独身の生活に不自由してなくまだしたくない等からであ



図Ⅱ.6.1 出会い（保育園アンケート）



図Ⅱ.6.2 未婚でいる理由（きらめきアンケート）

った。(図Ⅱ.6.2)平成25年度の厚生労働白書(若者の意識を探る)において、年収300万以下での既婚率が10%にも満たず300~400万円の25%であることから、年収も要因として指摘されているが、最近の調査(国立社会保障人口問題研究所9月15日発行)<sup>12)</sup>では18~34歳の未婚者で交際中の異性がない男性は7割、女性は6割に達したと報道されている。従って、前記アンケート結果は結婚感が変わってきた要因が大きいと言える。

## 7. アンケートから推測される高齢者ボランティアの意識

子育て支援は、これまでの調査からボランティアに多くを依存していること、退職後の元気な高齢者への期待も大きいことが分かってきた。今回きらめき市民大学生に協力頂き、ボランティアに対する意識アンケートを実施した。

調査日は本年9月29日、10月6日で、対象者185名に対して回答者133名で、回収率は72%であった。男性74名、女性59名で61歳から75歳で大半を占めている。

### ① ボランティアへの参加/興味/参加意思

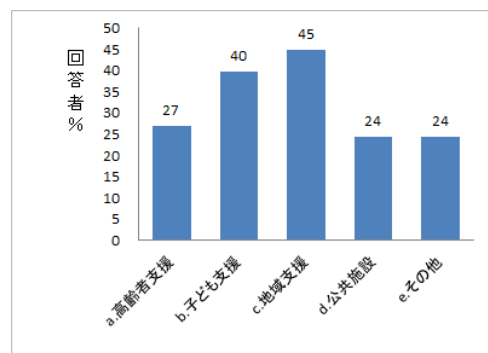
ボランティアへの参加経験、興味、あるいは要請された時の意思を調査したところ、参加経験者は59%、興味を持っている人は59%、要請された時に内容次第も含めて参加の意思を持っている人は68%であった。(表Ⅱ.7.1)興味はないが内容次第で参加しても良いと考えておられる方が比較的多いと思われる。

表Ⅱ.7.1 ボランティアへの参加/興味/要請に対して

ボランティアに参加	ある	59%
	ない	38%
	無回答	3%
ボランティアに興味	ある	59%
	ない	34%
	無回答	8%
ボランティアの参加要請	参加する	37%
	参加しない	11%
	内容次第で参加する	31%
	無回答	21%

### ② ボランティアの参加内容

参加したボランティアの内容で最も多いのは、地域支援、子ども支援であり、続いて高齢者支援、公共施設となっており(図Ⅱ.7.1)、地域、子どもがキーワードであった。支援回数も年数回から毎週等広く分布しており、出来るところから実施されているようである。

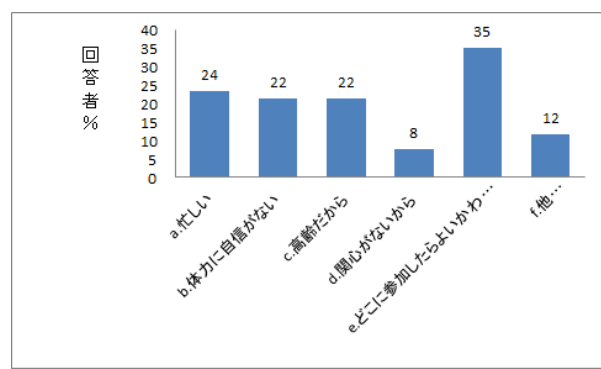
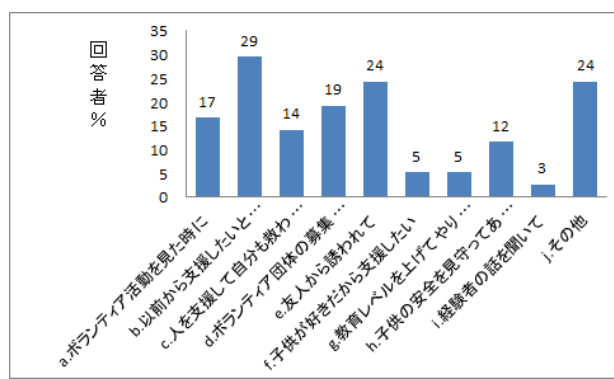


図Ⅱ.7.1 ボランティアの内容

### ③ ボランティア参加のきっかけと、しない理由

ボランティアには「以前から参加したいと思っていた人」29%、「自ら応募した人」が24%が高いが、「ボランティア活動を見た時」と上げた人も17%あり、何らかのきっかけが契機になった人も比較的多い。(図Ⅱ.7.2)

ボランティアに参加しない理由は、「どこに参加して良いか分からない」が35%で最も多い。「忙しい、体力に自信がない、高齢だから」との理由もあるがボランティアの



## 内容とき

図Ⅱ.7.2 ボランティア参加のきっかけ

きっかけが

図Ⅱ.7.3 ボランティアに参加しない理由

あれば参加したい人は多いようである。(図Ⅱ.7.3)

## 8. まとめ

少子化、中でも“子育て”に焦点をあてて検討したが、我々市民レベルにとって重いテーマであった。多くの関連資料、訪問、見学、アンケート等をとおして、前記のように市の施策への理解を深め、関連行政・民間事業を知り、子育て実態を把握した。これらの結果を踏まえ、以下のように考察し、本テーマのまとめとする。

① 東松山市は子育て環境として、自然に恵まれている上、更に市としても多くの施策を用意している。見学した放課後教室、参加した English 寺子屋では大勢の子どもがゲームをしながら楽しく学んでおり、子育て支援センターの利用度も 55%と高く人気があり、これらの施策の運営状況は良好との印象であった。民間でも見学した寺子屋、子育てネット、子ども食堂では、子どもが楽しく参加出来る居場所を提供しながら、地域で子どもを見守る、育てる精神がみられた。

② 一方、保育園の親御さんアンケートでは子育て環境が整っていないとの回答が 58%に達し、市の調査でも 29%であった。また、病児保育室、ファミサポ、休日保育等の利用度がいずれも 8%以下と低くなっていた。事前申請・登録が必要であるため、使い勝手の悪さによるものと推測された。更に、SNS、情報誌の利用度が 23%, 20%に対して市の広報活動、コアブックの利用度が 6%, 3%と低くなっていた。広報活動の方法が課題と思われた。

アンケートから、子育て環境、特に乳幼児向けが整っていない背景が見えたように思われる。

③ 東松山市は、都心からやや距離があり、子育て世代の流出が多く、人口減、低出生率となっているが、隣町の滑川町では近年動きが鈍化したものの人口増、高出生率が続いており、子育て世代の流出はまだ大きな問題となっていない。滑川町の子育て環境の特徴は、3 世代同居が多かったこと、開発団地と産業のバランスが良かったことであるが、更に出産祝い金、学校給食費無料、高校生迄医療費無料等の子育て世代に魅力的な施策が用意されていたことであった。

東松山市は高校生以上の生活困窮生徒への補助、奨学金給付制度等の市独自の施策もあるが、乳幼児、児童に対する施策では差があるように思えた。

④ 高齢者の子育てへの期待は、各種市の施策へのサポート、特に子どもの見守り・触れ合い等が大きいことが分かった。要望に答えるには各自のおかれた環境が其々異なり、特に高齢故の体力、気力とも絡んで、容易に答えられない状況にあるが、一方内容次第での参加も含めば、参加したいとの希望は 68%に達することが明らかになった。

厚生労働白書<sup>13)</sup>によれば、結婚願望は 90%あると言われている。非正規社員増による低収入要因もあるものの、いつの間にか現在の生活に満足して、異性との交際、結

婚に至るのが少なくなったようである。この調査結果も一つの参考資料として、若い世代に伝えることによって、結婚感意識が変わって行くことも期待したい。

以上より、上記のように市に子育て施策の改善を要望するとともに、我々高齢者も期待されたボランティア活動への参加を、自らの課題として捉えたいと考えている。

最後にアンケートの若いお母さんから、“子育ては大変だけど、温かい家庭を持つ幸せを勇気を持って欲しい”とのメッセージをこれからの世代に伝えたい。

### Ⅲ 高齢化の側面からの検討

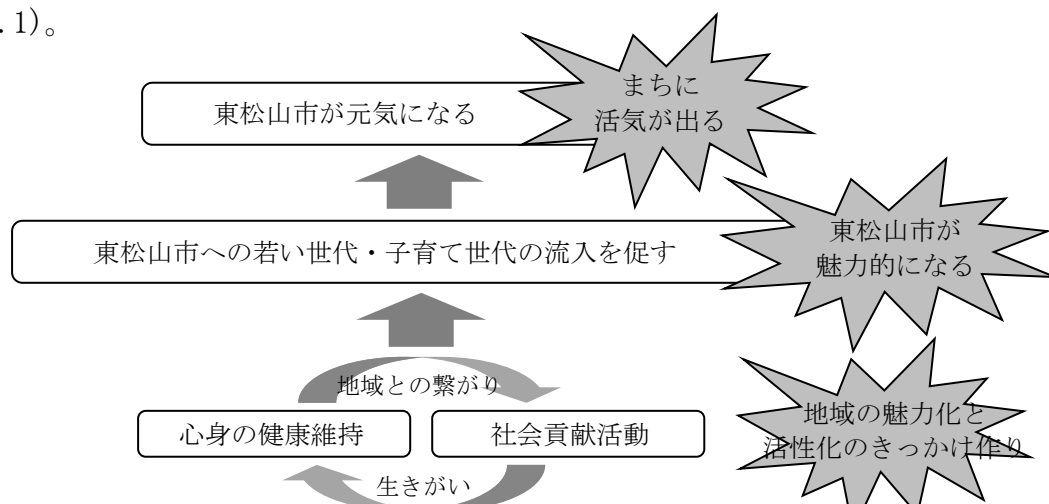
#### 1. 検討テーマの決定と課題研究の活動記録

「東松山市を元気にする」を目標に、東松山市社会福祉協議会へのヒアリング結果(表Ⅲ. 1. 1)も参考にして、高齢者として何をすべきか/何ができるかを検討した結果、「元気な高齢者が地域社会の新たな担い手となって、地域社会の活動に積極的に取り組み、地域社会を活性化することが期待されている」との考えに至った。

表Ⅲ. 1. 1 東松山市社会福祉協議会へのヒアリング結果

項目	概要
地域福祉を推進するための課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における出会いと繋がり(居場所、見守り、声のかけあい)が大切であり、地域のサロンを有効活用したい</li> <li>・地域ごとに要求は異なっている。地域での支え合いのためには、色々な話し合いや連携・調整の場を作ることが必要である</li> </ul>
高齢者に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気な高齢者には、地域の活動者になって欲しい(たとえば、支え合いサポート活動やシニアクラブへの参加など)</li> <li>・「花いっぱい運動」などの地域活動へ積極的に参加して、地域の担い手になって欲しい。これら活動を通して仲間を増やして欲しい</li> </ul>

この考えに基づき、「高齢者の健康作り・維持」と「高齢者の社会貢献活動」の2つの分野で検討を進めることにした。高齢者自身が元気になり何らかの役割を担い続けることで、地域が魅力化・活性化するきっかけ作りができ、若い世代や子育て世代の市内への流入を促して、活気のあるまちづくりが可能になると考えたからである(図Ⅲ. 1. 1)。



図Ⅲ.1.1 元気のあるまちづくりのプロセス

上記2つの分野で具体的に掘り下げて検討するテーマとして、①きらめきサロン(高齢者サロンに限定し、以後単に「サロン」という)の有効活用(活性化)と、②子どもの学習・教育支援活動を取り上げた。その理由は表Ⅲ.1.2に示した通りである。

表Ⅲ.1.2 検討テーマと取り上げた理由

検討分野	検討テーマ	検討テーマとして取り上げた理由
高齢者の健康作り・維持	サロンの有効活用(活性化)	・高齢者の健康作り、居場所作りの拠点として、市内74カ所に高齢者サロンを開設済(既存のインフラを利用可) ・社会福祉協議会もこの有効活用を重視
高齢者の社会貢献活動	子どもの学習・教育支援活動	・高齢者の持つ知識、経験、技術などを次の世代に伝えることは、高齢者の最大の使命 ・学力向上は、子どもの将来の選択肢や可能性を広げることに繋がる

これら2つのテーマについて具体的に検討するため、サロン活動の調査や、子どもの学習・教育支援活動の現場見学、関係部署のヒアリングを行い(図Ⅲ.1.2)、それらの結果を参考にした。

活動項目	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10~11
グループ討議	▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲						▲▲▲▲▲	▲
サロン活動の調査				▲▲▲▲▲	▲▲▲▲▲	▲▲▲▲▲	▲▲▲▲▲	
学習・教育支援活動見学ヒアリング		社会福祉協議会		▲	▲	▲	▲	
		放課後子ども教室、寺子屋、学校教育課、社会福祉課		▲		▲	土曜日寺子屋	

図Ⅲ.1.2 課題研究の活動内容と活動記録

## 2. きらめきサロンの有効活用について

### 2.1 サロン活動の調査

東松山市内には、H28年現在74カ所の高齢者サロンがあり(表Ⅲ.2.1)、その登録人員数は約2640人 表Ⅲ.2.1 東松山市の高齢者サロン数<sup>14)</sup>

地区名	サロン数
松山	21
大岡	4
平野	6
...	...

である<sup>14)</sup>。

サロンは自主運営が基本であり、地域の自治会や住民、ボランティアとが協働で企画し運営するとされている。地域でのふれあいや健康維持・介護予防、支え合いを目的に、月に1~2回程度自治会館などに集まり、ハッピー体操や茶話会、ゲームなどを実施しているサロンが多い。

社会福祉協議会は、サロンの運営資金の補助(概ね年間、100円×参加延べ人数)の他、サロンの立上げなどの総合的な運営支援を行っている。

本課題を検討するためには、サロンでの活動内容をまず把握しておくことが必要と考えた。そこで、各自が自宅近くのサロン(8カ所)に実際に参加・体験して、活動の様子を調査した。また、東松山市以外のサロン(南埼玉郡宮代町)も見学して、サロン活動検討の参考にした。サロン活動の調査結果を表Ⅲ.2.2に纏めた。

表Ⅲ.2.2 サロン活動の調査結果

地区名		松 山		
サロン名		A	B	C
開催方法	開催頻度	毎月第2木曜日	毎週木曜日(①②③④)	毎月第3火曜日
	主催者	民生・児童委員	団地代表者	民生委員
	ボランティア	6人(PTA4、自治会2)	①~④合計で6人	3人(前民生委員含む)
参加者	年齢層	70~90歳	60~80歳台	65~92歳
	登録者数	約50人(女40、男10)	①~④合計で49人	約50人(女性のみ)
活動内容		ハッピー体操、 手作り昼食会、講話、 お菓子作りなど	①手芸、②功/太極拳等 ③④ハッピー体操、 終了後に歌唱あり	ハッピー体操、ゴム球回し、 ダンベル体操、口腔運動、 ストレッチ体操、茶話会など
参加者の意見		・参加者同士でのコミュニケーションや、温かい手作り食事ができる	・脳の活性化によく、長く続けたい ・皆で集まりおしゃべり	・参加するのが楽しみ ・友達が多くなった。喋る機会が多くなった
サロン開催の懸案内容 他		・自治会との連携不足	できるのが楽しい	・会場が狭い。今後送迎が必要になる可能性大

地区名		平野	高坂	
サロン名		D	E	F
開催方法	開催頻度	毎月第1、第3木曜日	毎月第4木曜日	毎月第3水曜日
	主催者	地域代表者	元区長	区長
	ボランティア	ハッピー体操ホーター(女性3)	70歳以下はボランティア扱い	7人(元民生委員他)
参加者	年齢層	60~90歳	60~80歳台	65~80歳以上

登録者数	19人(男性1、女性18)	31人(女性が多い)	約60人(女性が>80%)
活動内容	ハッピー体操、 ゲーム、歌など。 茶話会(年2回)	唱歌、体操、紙芝居、 民話など(構成・内容は 独自に手作り)	ハッピー体操、ゲーム、 食事会、習字など (講演会もある)
参加者の 意見	・肩こりが楽になった。 ・気持ちが明るくなった ・皆に会えて楽しい	・地元の民話などの話題が 多く勉強になる(サロ ン参加者で場所を訪問)	・特になし ・区長が実施内容を考えて サロンを開催
サロン開催の 懸案内容 他	・開催場所(自治会館、 昼の間)が狭い	・中学生(4人)が夏休みに ボランティアで参加	・参加者が少ない

地区名	高坂	高坂丘陵	南埼玉郡宮代町
サロン名	G	H	陽だまりサロン(公営)
開催 方法	開催頻度	毎月第3土曜日	毎月第2月、第4火曜日
	主催者	区長	地域代表者(元民生委員)
	ボランティア	5人(副区長他4人)	ボランテア 8名
参加 者	年齢層	70歳以上	60~90歳台
	登録者数	26~30人(男女同数)	42名(女性のみ)
活動内容	ハッピー体操、血圧測定、 イベント(大正琴等)、 談話など(お茶菓子付)	ハッピー体操、脳トレゲーム など。毎回デザートで懇談 (主催者が手作り)	曜日毎に実施内容決め (ex.火曜:ストレッチ、水曜: 囲碁/将棋、木曜:織物)
参加者の 意見	・特にないが、談話等で コミュニケーションを図る	・おしゃべりが楽しい ・皆できることを自主的、 積極的にやっている	・その場で聞いた参加者 意見は取り入れる
サロン開催の 懸案内容 他	・トイレを洋式にした ・座椅子の購入を検討中		・小学校内にありセキュリティ 対策要(氏名、住所など)

## 2. 2 サロン活動の課題とサロンの活性化に向けた提案

表Ⅲ. 2. 2のサロン活動の調査をもとにサロン活動の課題を整理した。この結果、多くのサロンに共通する課題として、

- ①男性の参加者が少ない。サロン参加者を増やす工夫が必要
- ②活動内容の工夫や多様化が必要
- ③サロン主催者(運営者)の負担が大きいことが分かった。

東松山市内のサロン74カ所の内、1割強のサロンについて活動調査を行っただけである

ので、データとしては少ないが、サロン活動活性化のために検討の価値がある課題であると考える。上記①~③の課題について、改善策の提案も含め以下に述べる。



写真Ⅲ. 2. 1 サロン活動の様子(一例)



## ①男性の参加者が少ない。サロン参加者を増やす工夫

夫婦で参加する人が多いサロン(表Ⅲ. 2. 2、サロンG)もあるが、サロン参加者(登録者)は女性が圧倒的に多い。調べた範囲では、半数以上のサロンで女性登録者の割合が8割以上であった。登録者が全員女性というサロンもあった。

男性の参加者が少ない主な理由としては、以下があげられる。

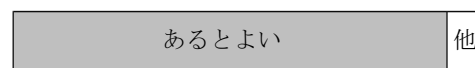
- ・多くの男性は定年まで働き、地域のことは妻に任せ切りになる。この結果、地域との繋がりが希薄になりサロンに参加しにくい。
- ・サロンの活動内容は体操や歌、ゲームなどが中心であり、男性から見て活動内容の魅力に欠ける。

高齢者が少しでも自宅外へ出て、体を動かし、人に会い、コミュニケーションを楽しむことは、高齢者の健康維持・増進に大きく役立つ(図Ⅲ. 2. 1)。男性が参加しやすいようなメニュー作り(具体的には課題②で述べる)、広報誌や回覧等でのサロン活動のPR強化(今回の調査でサロンの存在を初めて知った調査者がいた)など、サロン参加者を増やす工夫を積極的に行う必要がある。

[サロンへの参加理由]



[子どもたちとの交流]



0% 100%

図Ⅲ. 2. 1 サロンFでのアンケート結果

## ②活動内容の工夫や多様化

男性参加者を増やすためには、男性が好む囲碁、将棋、麻雀等のメニューを取り入れるなどの工夫が必要である。通常の会場での実施が難しければ、外部の専門店・施設と協力するなど、サロン運営をより柔軟に行う発想があってもよい。また、図Ⅲ. 2. 1に示したように、サロンでの子どもたちとの交流を望む声も多い。実際に、夏休みのボランティア活動で中学生が参加したサロンもあった(表Ⅲ. 2. 2、サロンE)。

これらへの取り組みの一例として、表Ⅲ. 2. 2に示した南埼玉郡宮代町の「陽だまりサロン」が参考になる。写真Ⅲ. 2. 2にサロンの様子を示した。指定管理者制度でNPO法人に運営を委託している。空き教室を改造した小学校内にあり、学校のある平日は毎日開催(NPO会員が常駐)、誰でも自由に入出りできる。学校の休み時間には子どもたちが遊びにやってくる。曜日毎に実施メニューを決めて、イベントも多く開催するなど、実施内容が偏らず、子どもから高齢者まで様々な人が世代を超えて自然に交流できるように運営されている。



写真Ⅲ. 2. 2 陽だまりサロンの様子

セキュリティや運営費用の課題を解決しなければならないが、東松山市や教育委員会には、学校内の空き教室を活用したサロン設置の検討を是非お願いしたい。高齢者

は子どもとの交流で元気をもらえるし、子どもは高齢者との交流を通して高齢者の持つ知識や経験、技能などを学ぶことができる。

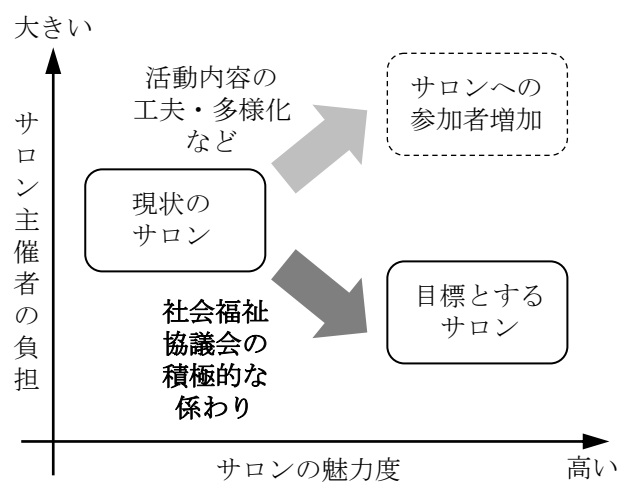
### ③サロン主催者の負担の軽減

現状のサロン運営方法ではサロン主催者の負担が大きい。活動内容の企画、会場の準備、当日の進行、お茶やお菓子等の準備など、全てを主催者の自発的努力に依存している。このような状態を放置したまま、サロンの活動内容を工夫・多様化してサロンへの参加者を増やしても、サロン主催者の負担が増えるばかりである(図Ⅲ. 2. 2)。

これを避ける方策として、サロン運営方法の改善や効率化に社会福祉協議会がより積極的に係わって頂きたい。社会福祉協議会が中心となり、他サロンの見学会や活動内容の工夫、成功事例の紹介など、サロン主催者間の情報交換を定期的かつ活発に行う。また、異分野の経験や知識、協力を得られるように、サロンと他の専門機関・活動団体との橋渡しを行うことも必要と考える。

継続的なサロン活動のためには、サロンの担い手をどう養成・確保していくかも重要な課題である<sup>15)</sup>。このために、定期的にミニイベントや情報発信を行うなど、サロン活動のPRが重要との指摘もある<sup>16)</sup>。

社会福祉協議会には、上記活動のより強力な推進をお願いしたい。高齢者ボランティアが協力することで、これら活動の推進を手助けできる。



図Ⅲ. 2. 2 サロン運営方法の工夫

## 3. 子どもの学習・教育支援活動について

子どもの学習・教育支援を考えた場合、未就学児(～5歳)、小学生、中学生、高校生など、その支援対象の範囲は広い。ここでは、以下の3つの理由から、学習・教育支援の対象範囲を小学生と中学生に絞って検討した。

- ①東松山市の人口は、総人口に比べ、小・中学生層の減少が大きい(表Ⅲ. 3. 1)。この層への学習・教育支援活動に協力することで、「教育に力を入れている東松山市」をアピールして、若い子育て世代の市内流入を促したい。
- ②平成 27 年度の全国学力・学習状況調査によれば、東松山市の小・中学生の基礎学力向上が必要であり、東松山市としてもこの学力向上に力を入れている<sup>17)</sup>。
- ③小・中学校は義務教育期間であり、誰でも等しく学校に通うことができる。ここでの学習・教育を充実させることで、全ての子どもの将来の選択肢や可能性を広げることに貢献できる。

表Ⅲ.3.1 東松山市の人口推移(H18/4月 → H28/4月)<sup>18)</sup>

年齢区分	0～5歳	6～11歳(小学生)	12～14歳(中学生)	総人口
人口(人)	4337 → 4271	4847 → 4458	2807 → 2240	90229 → 89656
増減	-1.5%	-8.0%	-20.2%	-0.6%

### 3. 1 子どもの学習・教育支援活動の調査

東松山市で行われている小・中学生への主な学習・教育支援活動を調査した。調査にあたっては、WEBなどからの情報収集、活動現場の見学とヒアリング、関係部署(教育委員会学校教育課、東松山市役所社会福祉課)へのヒアリングを行った。その調査・ヒアリング結果を表Ⅲ.3.2に纏めた。

表Ⅲ.3.2 東松山市での小・中学生への学習・教育支援活動の調査・ヒアリング結果

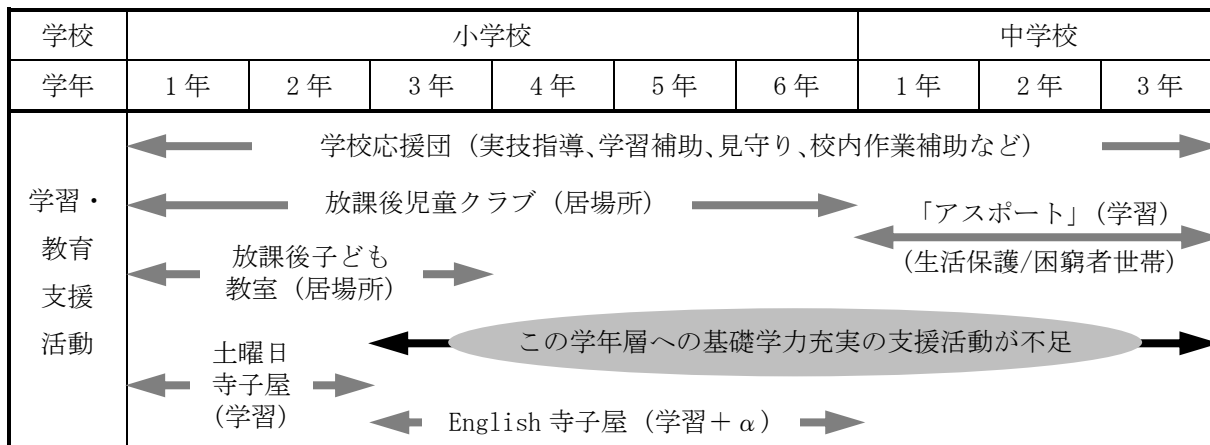
施策の名称	支援対象(定員)	概要	
学校 応援団	市内 小学校 中学校	・学校での学習活動、安心・安全確保、環境整備などについて、保護者や地域住民がボランティアとして協力	
		ボランティアの 仕事内容	・本の読み聞かせ、書写・部活動などの実技支援・指導 ・放課後、長期休暇中の補習支援(大学生のサポーターが多い) ・防犯パトロール、通学路見守り、花壇整備、修繕、図書整理など
		課題	・活動内容の充実 ・ボランティア、学校応援コーディネータ(ボランティアとの連絡・調整、名簿管理)の不足 <sup>19)</sup>
放課後 児童 クラブ	小学校 1～6年生  (70名× 5カ所)	・保護者の就労・病気・介護などで家庭内保育ができない児童を対象に、集団生活を行う「子どもの居場所、生活の場」 ・民営クラブも市内10カ所にあり、約460名が在籍 <sup>20)</sup>	
		ボランティアの 仕事内容	・学童保育指導員のもとクラブ運営に協力。児童の見守りや活動補助が主な仕事
放課後 子ども 教室	小学校 1～3年生  (24名× 4校)	・放課後の児童の安全・安心の「居場所」として、小学校の空き教室を利用。勉強・スポーツ、文化活動、地域住民との交流などの取り組みを推進	
		ボランティアの 仕事内容	・コーディネータ(運営責任者)のもと教室運営に協力。児童の見守りや活動補助が主な仕事
		課題	・より多くの人数に対応できるように、場所とボランティアの確保が必要 <sup>19)</sup>
土曜日 寺子屋	小学校 1,2年生  (30名× 2校)	・土曜日寺子屋：基礎学力の向上と学習習慣の定着を目指して、参加者のレベルに合わせて学習指導(国語、算数)。希望者が参加 ・English 寺子屋：外国語を用いたコミュニケーション能力の基礎を養い、異文化への理解を深めることを目的に行う活動。希望者が参加	
English	小学校	・過去に「土曜日寺子屋」を実施した小学校の一部では、学校主体で継続的に寺子屋を実施中(対象学年や定員は実施校で決定)	

寺子屋	3～6年生 (～70名)	ボランティアの 仕事内容	・コーディネータ(運営責任者)のもと寺子屋運営に協力。丸つけと 学習指導、児童と一緒に英語活動への取り組み補助が主な仕事
		課題	・地域の教育力を活用する方向に運営方法を改善 19、21) (地域でコーディネータ、ボランティアを確保)

ヒアリング項目	概 要
学校教育の 課題	・基礎学力を充実させながら、積み重ねた知識、理解に基づいて、新たな ことを考え・築き、それを発信していく力を高めること ・学校教育は地域に支えられている。地域でのサポートをお願いしたい
ヒアリング項目	概 要
生活保護/生活 困窮者世帯への 学習支援 (中・高校生)	・埼玉県「アスポート」事業と連携。高校進学/卒業率の向上が目的 ・公民館などの部屋を借りて実施。学習支援業務は民間業者に委託。学習 指導員(教室責任者)のもと大学生ボランティアが個人学習を支援

### 3. 2 子どもの学習・教育支援活動の分析

前節の調査結果から、東松山市での子どもの学習・教育支援活動は、「安全・安心の居場所作り」と「基礎学力の充実」とに大別できる。その状況を図Ⅲ. 3. 1 に纏めた。



図Ⅲ. 3. 1 子どもの学習・教育支援活動の学年別状況

図Ⅲ. 3. 1 から明らかなように、東松山市で行われている子どもの学習・教育支援活動では、「居場所作り」に比べて「基礎学力の充実」に向けた取り組みが弱い。あらゆる学力の土台となる国語、算数・数学の学習支援活動を見ると、小学生では 1～2 年生を対象にした土曜日寺子屋はあるが、3～6 年生を対象にした学習支援活動が欠けている。中学生についても、全ての生徒を対象にした学習支援活動は学校応援団のみである。一方、「小・中学校で十分な学力を身に付けられず、生活や仕事で苦勞する人は今も少なくない」との意見がある<sup>22)</sup>。埼玉県が実施しているアスポート事業では、「中学生なのに、小学 4 年生レベルで学力が止まってしまっている生徒が多い」との

報告もある<sup>23)</sup>。

以上のような状況を考慮すると、小学1～2年生に加えて、小学3年生～中学生までの全ての児童・生徒を対象にした、基礎学力充実への取り組みの強化が必要と考える。学校応援団でも学習支援活動が行われているが、個々の児童・生徒の到達度や理解力に合わせた取り組みも必要である。

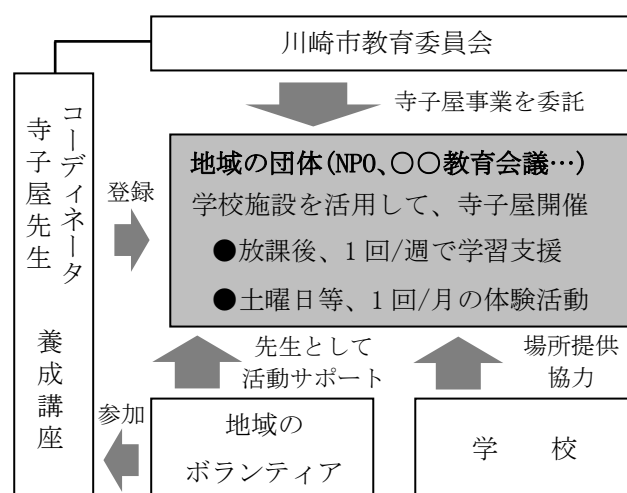
### 3. 3 基礎学力の充実に向けた学習支援活動の提案

現行の土曜日寺子屋を小・中学校の全学年へ拡大できれば、個々の児童・生徒のレベルに合わせたきめ細かな学習支援を通じて、義務教育全体での基礎学力の底上げ・充実化が期待できる。その第一段として、高齢者がより一層協力して、寺子屋活動での学習支援を市内全ての小学校の全学年に拡大することを提案したい。一部の小学校では、既に全学年を対象にした寺子屋活動を独自に行っているが(表Ⅲ. 3. 2)、支援ボランティアの大部分を大学生に頼っており、地域の支援ボランティアが不足している。

全学年を対象にした寺子屋活動を実施するためには、川崎市(神奈川県)で行われている寺子屋運営の仕組み<sup>24)</sup>が参考になる(図Ⅲ. 3. 2。H26年度から寺子屋事業を開始、21カ所で寺子屋を開催中)。ポイントは以下の2点である。

- ①教育委員会から地域の実施団体に寺子屋事業を委託：地域の団体が寺子屋を運営、NPO法人など地域の力を活用している。
- ②寺子屋活動のPRと支援ボランティアの養成：「寺子屋先生・コーディネータ養成講座」を定期的を開催し、寺子屋活動をより多くの人々に知ってもらい活動に参加してもらおう。

東松山市においても、このような寺子屋運営の仕組みを取り入れることにより、寺子屋実施団体の運営や先生役として高齢者が活躍する機会を増やすことができる。より多くの高齢者が参加して寺子屋活動の強化・拡大を図り、基礎学力の充実を通じて子どもの未来や可能性をサポートしていきたい。



図Ⅲ. 3. 2 川崎市での寺子屋運営の仕組み<sup>24)</sup>

## 4. まとめ

年々確実に高齢者が増えていく状況下で、東松山市を元気にするために、高齢者として何をすべきか/何ができるかについて検討した。この検討結果を、きらめきサロンの有効活用と子どもの学習・教育支援活動への貢献という2テーマに纏めた。

課題研究では、様々なサロンや子どもの学習・教育支援の現場を見学させて頂き、たくさんの関係者からお話を伺う機会を得た。これらの見学・ヒアリング活動を通し

て、自分たちの今後の人生をどのように過ごしていけばよいかについて、改めて考える機会になったと感じている。

この課題研究をきっかけに、地域のサロンに参加したい、地域で「花づくりの輪」を広げていきたい、子どもの学習・教育支援のボランティア活動に参加したいなど、積極的な意見や行動が出始めている。高齢者自身が地域の中でコミュニケーションを取りながら、色々な活動に積極的に参加することが、地域と高齢者自身の元気に繋がり、元気と活気に溢れた東松山市の実現に貢献できるのではないだろうか。

#### IV おわりに

今回の課題研究では、「東松山を元気にする」という壮大なテーマに挑んだが、時としてテーマの大きさに押しつぶされそうになり、議論が空回りに終わることもあった。

しかし、一市民としてこのテーマに挑むことで大きな収穫があった。それは、少子高齢化が、特に地方では深刻な問題であり、絶対に避けて通れないものであることを改めて認識したことであり、また、私たち高齢者が自分たち自身の健康を保ちつつ、地域社会に積極的に関わっていこうとする自覚を持てたことである。自覚を実行に移すことにより、東松山市の未来には明るい展望も見えてくる。

この課題研究を進めるにあたっては、さまざまな方に御協力をいただきました。特にヒアリングをさせていただいた行政部門の方、訪問した民間の施設の方、アンケートに御協力いただいた大勢の方々には本当にお世話になりました。あらためて深く感謝を申し上げます。

#### 文献等

- 1) 第五次東松山市総合計画 H28/4
- 2) ひがしまつやま子ども夢プラン H27/3
- 3) 滑川町子ども・子育て支援事業計画 H27/3
- 4) 吉川市子ども・子育て支援事業計画 H27/3
- 5) ふじみ野市子ども・子育て支援事業計画 H27/3
- 6) 坂戸市子ども・子育て支援事業計画 H27/3
- 8) 総務省統計局統計調査部国勢統計課「国勢調査報告」H28/10/1
- 7) 総務省統計局「国勢調査による基準人口（日本人人口）」H28/10/1
- 9) 東松山市ホームページ(くらしの情報) H28/10/1
- 10) 滑川町ホームページ(福祉について) H28/10/1
- 11) 滑川町学校等給食費徴収規則 H27/3/24 改定
- 12) 国立社会保障人口問題研究所(結婚と出産に関する全国調査)H28/9/15 発行
- 13) 平成 25 年版 厚生労働白書-若者の意識を探る-
- 14) 東松山市社会福祉協議会：H28 年度資料
- 15) 埼玉県社会福祉協議会：ふれあい・いきいきサロン活動事例集、H26/9
- 16) 松浦健治郎、浦山益郎：地域福祉を支える「地域の居間」としてのシルバーサロンの利用向上のための一考察、

三重県名張市のふれあい・いきいきサロン事業を対象にして、WEB 掲載記事

- 17) 東松山市：東松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略、H27/10
- 18) 東松山市：東松山市の人口・世帯数の推移、東松山市役所 HP
- 19) 埼玉県教育委員会：H27 年度「学校応援団」「放課後子供教室」実践事例集、H28/3
- 20) 東松山市教育委員会：H28 年度「東松山市の教育」、H28/8
- 21) 東松山市：平成 27 年第 2 回東松山市教育委員会会議録
- 22) 朝日新聞：基礎教育充実へ学会、H28/8/21 朝刊
- 23) 龍前航一郎：アスポートは何を支援したのか、WEB 掲載記事
- 24) 川崎市教育委員会：地域の寺子屋事業 HP